

みやぎの環境

特集：自然を守る

NO. **4**



1992

3

空き缶に思う

陶芸家

吉川 団十郎

私の名刺の肩書きを紹介しましょう。

「宮城県民全員が大地に空き缶や空き瓶を捨てたりしなくなる日を夢見る会」
会長。 宮城の団十郎

たぶん日本で一番長い肩書きを持った男でしょう。これをどのように略して呼べば良いのか困っている。まるでジューゲムジューゲムのようなものだ。

この肩書きも普通の人なら「なくなる日を夢見る会」ではなく「なくする会」と付けるはずです。でもあえて「夢見る会」にしたのはなぜか？ 「なくする会」とすると缶や瓶を拾わなくてはならない。「他人が捨てたものをなぜ俺が拾わなくてはいけない！」。そこで拾うのが嫌な俺は「なくなる日を夢見る。だからやめておこう……。」といった理由からこの名が付いたわけです。だから我慢にはなりません。今まで空き缶を一個も拾ったことのない会長です。おかげで疲れることなく永く活動を続けております。ぜひ貴方も会員になりませんか！ 早い者勝ちです。今なら副会長になれます。なぜなら現在メンバーは誰もいません。

つまり、この会は「拾う会」ではなく「捨てない会」なのです。宮城県民全員が捨てなくなればこの会の目的は達成されるのです。



表紙：気仙沼市徳仙丈山の山ツツジ
写真／「写真集団 鼎」佐々木徳朗
(宮城県環境保全活動アドバイザー)

みやぎの環境 第四号

CONTENTS	
空き缶に思う	吉川団十郎 2
特集◎野山の生物とふれあってみよう	
自然を守る	3
しぜん	
宝石を秘めた小火山	鳴子火山・濁沼 柴崎 徹 8
エコライフ	
自然のなかで遊ぶつ五感をつかう	10
きれいな自然環境を求めて	
クリーンなエネルギーへのチャレンジ	
宮城県村田高校自動車科学クラブ	
地球にやさしい商品	11
INFORMATION	
NEWS・環境伝言板	12
本棚・環境情報センターから	13
見る・聴く・ふれる	
高清水町桂葉清水	14
まちなみ	
女川町江ノ島	近江 隆 15
G A I A 「葉草」	千石正乃夫 16

特集

自然を守る

野山の生物とふれあってみよう

魚取沼のミツガシワ群落と「ゆるぎ田代」
写真／柴崎 徹（伊豆沼・内沼環境保全財団）

私たちは子供の頃、メダカをすくって遊んだり、蝶やトシボを追いかけて広い野原を駆けめぐったものでした。ふるさとの四季折々の自然の美しさ、きれいな水、緑や身近な小動物とのふれあいは私たちにゆとりと安らぎを与えてくれます。

祖先から受け継いだすばらしいみやぎの自然を次世代へ引き継ぐために、私たちは何をなすべきなのでしょう。自然環境を守っていく第一歩は、自然とふれあい、自然の仕組みとその大切さを知るところから始まります。

自然と私たち
私たちは生態系のなかの一消費者です

「自然」とはどういうものでしょうか。

太陽の恵みのもとに、そのエネルギーを源として大気・大地そして人間を含めたすべての生きものが、互いに依存し関わりあっている一つのまとまりのある姿、それが私たち地球の「自然」といえましよう。

この自然のなかで、「生産者」としての植物は太陽エネルギーを吸収し、大地から養分を得て成長し、それを昆虫や小鳥たちが食べ、さらにそれらを蛇や鷲などの肉食動物（消費者）が食べます。これらの排泄物や死体は土のなかのバクテリア（分解者）などによって分解されて土に帰り、再び植物を育てます。このように生きものは食べることをおして「食うもの」と食われるもの」の関係でつながっています。このありさまを食物連鎖といい、生産―消費―分解の三つの過程をめぐる仕組みを「生態系」といいます。人間もこの生態系のなかの一消費者であり、すべての生きものはこの仕組みのなかで、互いに関わりあつて共存共栄の姿を保つていかなければならないのです。

私たちは自然を利用し改変しながら、豊かで快適な生活を目指してきましたが、戦後の急激な経済成長は、時として自然との調和を乱し、公害や自然破壊を招く結果となりました。かつては普通にみられた沼や湿地や小川は、そこで

さまざまな植物が繁茂し多くの小動物が生きているごく身近な自然でしたが、都市化の進展とともにせばめられ、水の汚れが進み、生き物たちがいなくなり、ごみ捨て場と化し、そして埋め立てられたりして消えていきました。また緑に覆われていた山や丘が削り取られ、沢は埋められ、住宅や工場が建てられていきました。ここではもはや前に述べた生産―消費―分解という生きものどうしの自然の循環はみられないか、あるいはみられたとしても自然本来の姿ではなくなつてしまつています。

自然は征服の対象ではありません。自然の中の一員である私たちが、大気や大地、そしてすべての生き物たちと一体になつて支えあうものなのです。ここに私たちが自然を守つていかなければならない背景があります。

みやぎの自然環境のようす
緑豊かで美しいふるさとです

温和な気候のもとにありながら冷温帯と暖温帯の両方にまたがつて位置する宮城県は、豊富な植物がみられ植生もきわめて複雑で、かつ多彩なものになっていきます。この豊かで良好な植物相をうけて、野生鳥獣の種類も多く、県内で観察されている獣類は約三〇種、鳥類は約三二〇種にのぼつています。

国では昭和四八年から自然環境保全基礎調査、いわゆる緑の国勢調査を日本全土で行なつ

ていますが、これによると本県の自然は、人手がほとんど加えられていない、いわゆる「原生的自然」地域は少なく、古くから炭焼きや柴刈りなど森林の伐採が行なわれた「二次的自然」と呼ばれる地域と、水田、畑地や果樹園などの「田園的自然」地域が広いことが特徴です。また調査の結果、国の選定基準にあつた一四〇か所が「特定植物群落」に、九一種が「特定昆虫類」に選定されています。これらの貴重な群落や昆虫類の生息地は、その多くが二次的自然地域と田園的自然地域に見られます。このことは、これらの地域が開発の対象となることが多い地域であり、これらのすぐれた自然を維持していくためにはきめのこまかい配慮がなされなければならぬことを示しています。

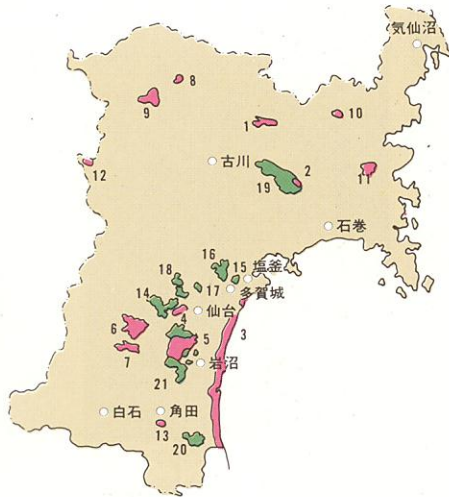
自然は一度壊されると容易にはもとに戻りません。次に続く世代のためにかけがえのない自然を守つていかなければなりません。

国は自然環境保全法をはじめ、いろいろな制度を設けて自然の保護、保全をしています。本県でもすぐれた自然環境を保全する目的で、県立自然公園や県自然環境保全地域、緑地環境保全地域を指定し、その地域内での宅地の造成や土石の採取などの行為を規制しています。

ここでは、県内の環境保全地域から三か所を選んて、そのすぐれた自然のあらましを紹介しましょう。

・魚取沼うしほ自然環境保全地域

山形県境に連なる奥羽山脈のなかに位置しており、宮崎・小野田両町にまたがる魚取沼を中



県自然環境保全地域（13か所）

名称	位置	保全対象
1. 伊豆沼・内沼	迫町、築館町、若柳町	ガン、ハクチョウの越冬渡来地
2. 笹岳山	涌谷町	笹岳観音堂境内の樹齢百年を超えるスギ等の人工林
3. 仙台湾海浜	仙台市、名取市、岩沼市、巨理町、山元町	クロマツ林と自然海岸、海浜植物、コクガン、シギ、チドリ類渡来地
4. 太白山	仙台市	モミ、イヌブナ天然林、ヒメギフチョウ生息地、太白山の特異な地形
5. 樺水・五社山	名取市、村田町	本県の典型的な雑木林と豊富な野性鳥獣の生息地
6. 釜房湖	川崎町	清浄な釜房湖
7. 谷山	川崎町、村田町	イヌブナ天然林、アカマツ天然林
8. 御嶽山	花山村	アズマシャクナゲ群落
9. 一椏山・田代	花山村、鳴子町	ハルニレ、ブナ天然林
10. 鱒淵観音堂	東和町	ケヤキ自然林、天然アカマツ遺存林
11. 翁倉山	北上町、津山町	イヌワシ営巣地、アカマツ自然林
12. 魚取沼	宮崎町、小野田町	ブナ天然林、テツギョ生息地
13. 斗蔵山	角田市	ウラジロガシ天然林

緑地環境保全地域（8か所）

名称	位置	保全対象
14. 蕃山・斎勝沼	仙台市	都市近郊にあり、市街地外周部の緑地を保全するために必要な樹林地、地沼、丘陵など良好な自然環境を形成している地域
15. 加瀬沼	塩釜市、多賀城市、利府町	
16. 県民の森	仙台市、富谷町、利府町	
17. 丸田沢	仙台市	
18. 権現森	仙台市	
19. 加護坊・笹岳山	涌谷町、田尻町	
20. 深山	角田市、山元町	
21. 高館・千貫山	仙台市、名取市、岩沼市、柴田町	

（平成2年度末現在）

心とする地域です。特に、沼には国の天然記念物に指定されているテツギョが多数生息していることで有名です。水辺に近いところはクツシヨンのように地面が上下に動く、いわゆる「ゆるぎ田代」と呼ばれる場所となっています。これは湿原植物の一つであるミツガシワによってつくられるといわれています。湖畔の湿地にはヤチダモの湿地林が、また沼を取り囲む尾根斜面にはブナの大木林があり、なかには胸高直径が一メートルをこえる巨木もみられます。

・仙台湾海浜自然環境保全地域

仙台市宮城野区蒲生から山元町の福島県境まで、幅約一キロメートル、長さ約三六キロメートルにおよぶ砂浜海岸の地域です。この地域は七北田川、名取川、阿武隈川などの河川が海に注ぎ、河口付近には干潟がよく発達し、後背湿地と一体になって多様な地形が作られています。砂浜には藩政期から育てられてきたクロマツの見事な防潮林が広がっているほか、ハマエンドウやハマヒルガオなど豊富な砂浜植物がみられます。点在する潟湖や湿地は動物の生息環境としてきわめて特徴的で、蒲生や井土浦、鳥の海などの干潟はシギ・チドリ類の格好の渡来地となっています。初夏には砂浜でコアジサシが集団で卵を生み、雛を育てます。ガン・カモ類で特筆されるのは国の天然記念物にもなっている冬の渡り鳥のkokoganで、蒲生付近で見られます。

・深山緑地環境保全地域

角田市と山元町にまたがる深山を中心とする

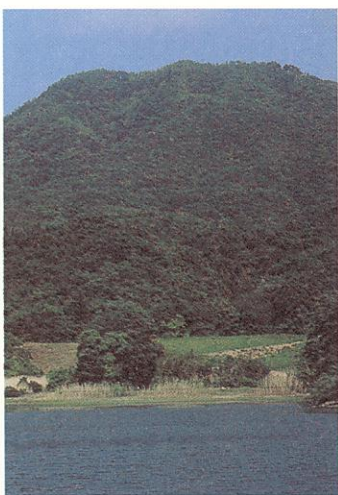


魚取沼のテツギョ
写真/高取知男(仙台市科学館)



ハマヒルガオ群落(仙台市蒲生)
写真/内藤俊彦(東北大学)

地域で、古くから里山として利用され、地元の人々は「深山さん」と呼んで親しんできた山々です。地域はほぼコナラ・クリ林に覆われていて、ニッコウムササビの生息やサンコウチョウなどの渡来が確認されています。深山山頂付近の稜線沿いにはカラスアゲハが飛来し、山頂に集まる蝶の習性（ヒルトッピング）が観察されます。角田市側のふもとにある内町溜池の北側の丘は、古くから金毘羅大権現が祭られており、丘全体がいわゆる鎮守の森になっています。この森はウラジロガシを主とした照葉樹林で、この地域の自然の面影を残している貴重な森となっています。



深山西面と内町溜池 写真/柴崎 徹

未来への責任を果たすために
私たちにできること

貴重な自然を守るためには、その方法として法律や条例で規制することはもちろんですが、行政だけでなく私たちが自身もその努力をする必要があります。

自然を守ることは、自然を知ることから始まります。自然とのふれあいを多く持ち、自然の仕組みや人間との関わり、大切さについて理解を深めましょう。このことはまた、明日の自然を守り育てる子供たちが自然と接するマナーとルールを学ぶ第一歩となる、という点でも大切です。ふれあいの場は原生的自然から都市周辺に残された身近な樹林地、水辺、鎮守の森、公園などの緑にいたるまで、いろいろあります。

一、自然観察の輪はまず家庭から広げよう
家族でハイキングにいったとき、花に名前をつけるゲームをしたり、五感を使って自然のなかの音やにおいをつかまえたりしてみましよう。なにげない花にもどんな虫が来ているか調べてみましょう。ドライブよりもサイクリング、遊園地よりも雑木林、です。

二、県や市町村、自然保護団体などが開く自然観察会に参加しよう

これらの観察会には、自然観察のマナーや見方、観察のポイントなどを指導してくれるリーダーが必ずついています。また、観察会をつうじて仲間の輪を広げていくことができますし、

他のグループの活動ぶりや自然を守っていくためのさまざまな情報を得ることが出来ます。県でも毎年自然観察会を開催しています。詳しくは環境保全課(電話〇二二―二二―二六七一)までお問い合わせください。

三、自分のホームグラウンドをつくらう
身近な自然のなかで、自分の気に入った観察コース(散歩道)をつくりましょう。見慣れたと思っていた身近な自然も、日々、見続けるこ

●自然観察をする時のマナー10か条



自然のなかではできるだけ音を出さないように。大声も出さないで。



無益な殺生はやめよう。



採ってしまえばわからない自然のしくみをよく見よう。採集はやめよう。

五感を養おう。そのための採取は最小限のものにとどめよう。目立つところから採るのはよそう。



巣や卵には近づかない。子連れの雌も距離をおいて観察しよう。



人がやってきた跡をなるべく残さない工夫をしよう。



ゴミになるものは持っていかない工夫をしよう。出てしまったゴミは必ず持ち帰る。



火をたくときは小さなものを。タバコの火のしまつもきちっとやろう。



大勢で1か所に入るのはやめよう。斜面の近道はやめよう。



ほかの人のしゃまに
ならないよう気をつけよう。



自然観察会 写真/県環境保全課

(資料：(財)日本自然保護協会編集・監修「自然観察ハンドブック」)

とよつてそこにいろいろな変化があることが見えてきます。自然観察は、自分の住んでいる土地の自然を、自分の心のなかに発見していく作業であるともいえます。

四、ボランティア活動に積極的に参加しよう
体を動かして自然保護の具体的な活動を体験し、生き方として自然保護を考える、そういう生活態度を身につけましょう。ボランティア活動にはさまざまなものがあります。市町村などが提唱して地域でおこなう清掃活動もその一つです。また、釣人の捨てた釣針やテグス系にからまって多くの鳥が死ぬ事故が起きています。川原や海岸のテグスを拾うだけでも大きな効果があります。

最後に、県内の自然を守る活動例をいくつか紹介しましょう。

小野田野鳥観察クラブ（下山安代表 電話〇二二九一六七―三八七二）では町内を流れる鳴瀬川やその支流沿いを中心に野鳥観察を続けています。野鳥と一体感を持てる幸せは最高、と自然とのふれあいのすばらしさを讃えています。



ヤマセミ（「小野田の野鳥」展から）
写真/下山 安（小野田町）

す。「人手の加わったりゾート地より自然があまりのままで残っている山野が珍重される時が必ずくると思います。自然はそこに住んでいる人が守らないで誰が守るのでしょうか。」という会員たちは、昨年の町民文化祭で「小野田の野鳥」と題した写真展を開き、身近に棲む鳥の生態をおして自然の大切さを訴えました。

山元町植生調査会（岩佐慶治会長 電話〇二二九一三七―一一一七山元町環境保全課内）は、自然環境を守り住みよい町を保つ指標として、町内の植生調査を続けています。調査員は、いずれも町内の高校生や一般の方々ですが、い

コモウセンゴケ 写真/山元町



までは専門家の指導を受け「山元町の植物」をはじめ「自然はともだち」「やまもとの野鳥」など植物以外の分野についても調査をし、その結果を本にまとめています。また調査だけでなく、かつ



ブナの植樹

写真/中新田ライオンズクラブ

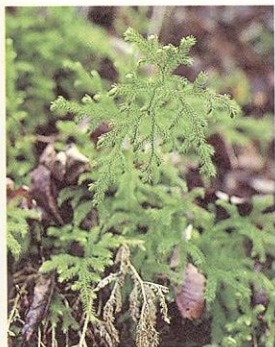
ては町内の海岸のいたるところでみられ、一面に緋毛氈を敷きつめたようにみえることからそ

の名がついたコモウセンゴケの群落を再び取り戻そうと、その保護・増殖にも努めています。中新田ライオンズクラブ（安孫子忠志会長 電話〇二二九一六三―二三六〇）は未来の子供たちからの預かり物である自然を自分たちの手で守り育てようと、営林署の指導で毎年国有林にブナの苗木を植え、下草刈りなどとして大切に育て続けています。

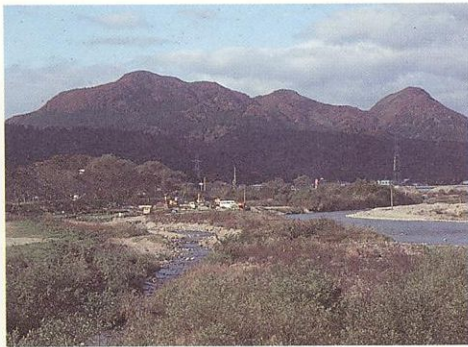
同じ中新田町で昨年一二月、住民と町が一体となった「いのちの水の会」（佐藤裕子代表 電話〇二二九一六三―二〇二九中新田町公民館内）が発足し、昔から親しんできた滝の沢不動様の湧水の復活と、周辺の自然を見直し、すばらしいふるさとを子孫に残していこうとしています。今年は、身近な野山や鳴瀬川源流域の観察会や生活雑排水による川への影響調査、シンポジウムなど、さまざまな行事を計画しているとのこと。

参考または一部を引用した図書

- 一 ふるさと宮城の自然
ふるさとみやぎの自然編集委員会 宝文堂
- 二 ふるさとの自然 創刊号十三号
県保健環境部
- 三 自然観察ハンドブック
(財)日本自然保護協会 思索社
- 四 環境シリーズ
(財)日本環境協会
- 五 第二回、第三回自然環境保全基礎調査
環境庁
- 六 環境白書(平成二年度版) 県保健環境部
これらの参考図書は、すべて宮城県環境情報センターで閲覧できます。



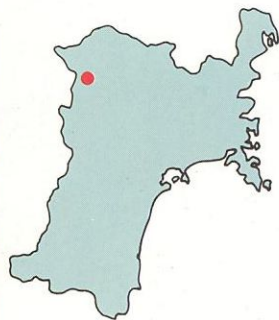
噴気孔のミズスギ



川渡から見た鳴子火山の全容
右が胡桃ヶ岳、左が尾ヶ岳

鳴子火山・濁沼
なるこ
かたぬま

寶石を秘めた小火山



（財）宮城県伊豆沼・内沼
環境保全財団主任研究員

柴崎

徹（文と写真）



湖畔より見た胡桃ヶ岳(左)、中ノ岳(中)、尾ヶ岳(右)



硫気孔のイオウの華

鳴子火山は、直径三キロメートルに満たない小さな火山である。栗駒山や鬼首カルデラに比較すると何十分の一の大きさであろう。川渡あたりから見ると、胡桃ヶ岳など奇妙な花を咲かせる山が、まるで押しくら餓頭をしているかのようにかたまっている。

濁沼は鳴子火山のマール(火口湖)。直径四〇〇メートル、蔵王の御釜をしのぐ湖面が、狭い山頂部に目いっぱいにお

さまっている。こじんまりとした外観からは、とても想像しえない神秘の湖である。

濁沼の標高は三〇八メートル、これは鳴子の温泉街より一五〇メートルも高く、そこに蓄えられた豊かな水が、火山を伝って熱せられ温泉となって麓から湧き出すのである。

湖畔や湖底には、たくさんの硫気孔や噴気孔が見られる。このため濁沼はpH2

という強酸性湖となり、ユスリカ以外の生物を寄せつけないのである。

しかし、火山の熱は、思いも掛けぬ暖かな地方の植物を噴気孔のまわりにはびこらせる。ミズスギである。小さな羊歯植物・ミズスギは、蒸気の水滴を葉の先のために、冬でも青く輝いている。

濁沼を抱く鳴子火山は、小さいながらも火山地形をコンパクトに詰め込んだ、地球からのすぐれた贈り物なのである。



● 交通案内 ●

濁沼までの交通機関は車または徒歩による。徒歩の場合はJR陸羽東線鳴子駅で下車し、温泉街を横切って背後の鳴子火山を登る。濁沼湖畔まで約二五分。

車の場合は上野々スキー場の下をまわり、鳴子カントリークラブ・ゴルフ場の北側を経て湖畔に至る。

● 耳をすましてみよう



自然のなかで遊ぼう
五感をつかう

自分のもっている感覚で自然と親しんでみましょう。

どれだけ自然の中で音がつかまえられるか。自然の中にはどんなにおいがありますか。自然の中で肌の感触を楽しみましょう。意外な発見があるかも知れません。

● 小さい音をつかまえよう



● 自然を肌で感じよう



● いろいろなにおいを楽しもう



(資料：財団法人自然保護協会編集・監修「自然観察ハンドブック」)

きれいな自然環境を求めて クリーンなエネルギーへの チャレンジ

今、私たちの身の周りでは、自動車の排気ガスの問題やガソリンなど石油系燃料の枯渇の不安が叫ばれている。さらに、地球の温暖化とか環境の保護ということもさかんに言われている。

しかし、私たちの知識では、これらの問題は、実感として伝わらず、環境の保護というと「空き缶や紙くずを捨てない」という程度の感覚しかもっていないのが実情と思われる。

そこで、私たちのクラブは、クリーンなエネルギーを活用してこれらの問題の解決の糸口を見つけようとソーラーカーの実験車の試作にチャレンジしてみた。実験車の仕様は「アルコール・ソーラー・ハイブリット・カー」である。ハイブリットとは、複合、組み合わせという意味を表す。晴天の時は、太陽電池のエネルギーでモーターを回し、ソーラーカーとして走行する。曇りの日にはアルコールを燃料とした補助エンジンで運転しながら発電も行ない、バッテリーに蓄電、電気自動車としても走れるという原理である。

太陽のエネルギーは、自然界に無限にふり注いでいる公害を発生しない工



宮城県村田高校
自動車科学クラブ

ネルギーである。一方、アルコールは、さつまいもやさとうきびなど植物バイオを活用して造ることができ、減反している田畑に栽培すれば緑の自然がもつと増え、農業の振興にも役立つだろう。

このように考えながら活動してみると、高校生も地球のきれいな環境を今のままに残すことの大切さと、その具体的な方法がだんだん見えてくるようである。

今、もつとも求められることは、世の中で起こっている問題をよく見つけ、解決するために行動することである。一号車、それは見た目こそ良くないが私たちが自然環境を守ることにチャレンジした第一歩である。この一歩を出発として、これからもクラブ活動を通してクリーンなエネルギーの活用の研究と環境を守ることへの「努力の輪」を広げて行きたい。

二十一世紀は、若者の、私たちの時代である。来たるべき新しい時代にもきれいな自然が残されるような環境づくりをみんなで考え、一緒に実行してみませんか！

(顧問 齋 輝夫)

地球にやさしい商品

1年間に国民一人あたり215缶も飲んでいる缶飲料。

ところで、あなたは缶ビールや缶ジュースのプルタブ(缶の開け口)の始末はどうしていますか。

ある観光地で、空き缶とプルタブの投げ捨てられた率を調査した結果、空き缶は記念メダルと交換するという方法で回収が行なわれていたため3.5%であったのに対し、プルタブはなんと78%もの数が投げ捨てられていました。(ダイナックス都市環境研究所調べ)

プルタブはほとんどが散乱しているのです。また、プルタブの金具は切口が鋭く、砂浜や公園で足を怪我したり、家畜やペットが餌と一緒に食べてしまう、などの被害がでています。

ステイオンタブ缶

これまで、扱いに困っていた缶のふた。もう捨て場所に困りません。

ステイオンタブ缶とは、缶を開けてもふた(タブ)が缶から離れないものをいいます。これなら、タブの捨て場所に困ることがありません。



7社38商品にエコマークがついています。(1991.10現在)



エコマークです。どうぞ、よろしく。

エコマークとは「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表した、環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマークです。環境(Environment)と地球(Earth)の頭文字を「e」が人間の手の形となって、地球をやさしくつみ込んでいるデザインになっています。(エコマークの「エコ」とは私たち人間や生物が生きていけるよい環境という意味です)

「ふるさと」の自然」 第十四号発行される

「ふるさと」の自然は、宮城県のは、宮城県のすばらしい自然を県民の皆さんに再認識してもらおうとともに、自然のしくみを正しく理解し、自然と人間との関わりはどうかあるべきかを考える一つのきっかけになることを願って、昭和五四年から毎年一回、県環境保全課が発行してきている小冊子です。このほど第十四号ができましたので、その概略について紹介します。

第十四号では、昭和六三年度に行なわれた第四回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)をうけて、県内の巨樹・巨木林について特集しています。この調査によると、県内一の巨木は丸森町山根にある「丸森の大銀杏」と呼ばれているイチヨウの木で、幹の周囲がなんと十一メートル六〇センチもあるというものです。特集では、この大銀杏をはじめとして、県内各地の巨樹や巨木林をカラー写真をまじえて紹介しています。このほか、加藤陸奥雄先生による巻頭随想文「三つの自然と一つの造形」、そして雲仙普賢岳ですっかり耳なじみの言葉になってしまった感のある火砕流堆積物について、北村信先生による寄稿文「宮城県の火砕流堆積物」を掲載しました。さらに、昨年一月にオープンした伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターの活動状況や、好評のシリーズ「みやぎの動植物図鑑」など、盛り沢山の内容となっています。

「ふるさと」の自然」第十四号は環境情報センターのほか、県庁の県政情報センター、地方県事務所の県政情報コーナーで閲覧できます。

県内二保健所に 電気自動車配備

県では、窒素酸化物など大気汚染物質の削減を図るため、自動車のクリーンエネルギー化を促進することとし、昨年十二月、二台の電気自動車を購入しました。

車は低床ハイルーフ型四人乗りワゴンボックスカーで、バッテリー八個を動力源として搭載しており、最高速度は時速七五キロメートル、一回の充電で約百キロメートル走行できる性能を有しています。(毎時四〇キロメートル定速走行時)。また、バッテリーに蓄えた電気でモーターを回して走ることから、ガソリン車やディーゼル車に比べ構造が大変シンプルで、走行時の騒音も約六ホンほど低いという結果がえられています。しかし、最大の特長は排出ガスを全く出さないということ、この点で電気自動車は最も「環境にやさしい自動車」といえるでしょう。県では、この車を塩釜保健所と黒川保健所に配備し、公害パトロール車として利用するほか、それぞれの保健所からおむね半径五〇キロメートル圏内、つまり一回の充電で往復できる範囲の市町村や事業所などで広報・普及活動を展開していく予定です。

「アース・イヤー'92」に参加しよう

今年の六月、ブラジルで「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)が開かれます。この会議では地球温暖化防止条約や「地球憲章」の制定、具体的な行動計画の策定など、二一世紀の地球保全に向けたさまざまな対策が話し合われ、決定されることになっています。

環境庁では、この会議の意義を多くの方に知っていただき会議を成功させるため、今年一年を「アース・イヤー'92」とし、今年開催される環境保全のための各種催しで、環境庁の後援、推薦などを得たものに対し、共通ロゴマークの使用、環境庁長官および「地球サミット」事務局長のメッセージの引用を認めます。後援、推薦にあたっては、催しの規模や主催団体等に特に制限はありません。皆さんの積極的な参加をお願いいたします。

「アース・イヤー'92」への参加についての詳細は、環境庁長官官房広報室広報係(電話〇三一一三五八〇―四九八二)にお問い合わせください。なお、参加案内パンフレットを環境情報センターで準備していますので、ご希望の方はお申し出ください。

みやぎ地球環境フェア

県では、この秋、地球環境問題に関するフェアを仙台市内で開催します。これは六月にブラジルで地球サミットが開催されるのを受け、県民の皆さんが地球環境問題を理解し、

身近な暮らしと地球環境との関係を考える機会を持っていたらこうとするものです。

フェアの期間は一週間程度を予定しています。期間中は、オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨、熱帯林の減少、野生生物種の減少など深刻化しつつある地球環境問題の現状や、その対応策として求められている環境にやさしい暮らし方についてのパネルなどを展示する予定です。その他にも電気自動車やソーラーシステムなどの地球にやさしい技術の紹介など、さまざまな展示・行事を計画しています。

また、県内の若者に、自然環境の保全についていろいろな意見を出し合い、討論を行なってもらうテレビ討論会の実施も予定しています。日程、内容の詳細は未定ですが、フェアについては県環境管理課(電話〇三一一二二二―二六六三)に、テレビ討論については環境保全課(電話〇三一一二二二―二六六七)にお尋ねください。

日本環境教育学会第三回大会

- 日時 平成四年五月二六日(土)、一七日(日)
- 場所 愛知教育大学
- プログラム 第一日…小集会、一般講演、シンポジウム●参加費 特別講演、総会 第二日…一般講演、三、五〇〇円●問い合わせ先 千四四八 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢一 愛知教育大学生物学教室 金森さん(電話〇五六六―三三六―三一一―内線五七二)



EARTH YEAR '92
「地球サミット」
ロゴマーク

『ごみとリサイクル』

ごみに関する問題は、今やマスコミによって報道されない日がないくらい人々の強い関心を集めており、大きな社会問題の一つになっていきます。

このような状況の中、私たちは潤いのある生活環境をつくりあげていくために、そしてひいては地球環境保全の観点からも、この問題を真剣に受け止め、具体的な解決策を早急に見いだしていかなければなりません。

本書は、ごみ問題に関心のある市民を対象に、ごみが大量に発生する社会的なシステムから、そのごみの収集方法、そして適正な処理方法について、各自自治体の事例をとおして分かりやすく説明されています。また、ごみの適正な処理が困難となっているさまざまな原因が紹介され、今後この問題を解決していく方法を考えるうえで貴重な文献ともなっています。

本書のなかで著者が一貫して述べていることは、ごみ問題に対しての市民の対応は、ただ単に問題への関心が強いだけで終らせるのではなく、具体的な解決策への積極的な参

加がきわめて重要であるということです。

市民一人ひとりがごみに関する確かな情報と認識をもち、日常生活のなかで自らができる対策を考え、具体的に行動を起こしていくことが、いまあらためて大切なことを本書は訴えています。(K)



著者 寄本勝美
発行 岩波書店

岩波新書

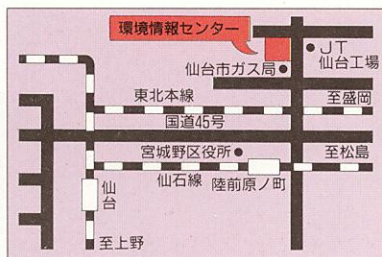
No. 149

定価 五八〇円

書名	著者	発行所
木を植えた男	ジャン・ジオノ	あすなろ書房
どろんこサプウ	松下竜一	講談社
NATURAL HISTORY 生きとし生けるもの	M.B. ゴフスタイン	ジーシー
ブナの森は緑のダム	太田 威	あかね書房
森は生きている	富山和子	講談社
ゴミのはなし	藤田千枝	さ・え・ら書房
新聞用紙のながい旅	村田栄一	PHP研究所
ことりをすきになった山	アリス=マクレーラン	偕成社
トビウオのぼうやはびょうきです	いぬいとみこ	金の星社
ちきゅうの子どもたち	グードルン・パウゼヴァング	ほるぶ出版

書名	著者	発行所
うさぎの島	イエルク・シュタイナー	ほるぶ出版
ぼくのジャングルを救って	モニカ・サーク	偕成社
日本の産業 産業と環境編	働 淳、三枝秀晴	福武書店
子どもたちが地球を救う50の方法	アース・ワークス グループ	プロンズ新社
日本の子どもたちが 地球を救う50の方法	グループなこん	プロンズ新社
人類はあと10年生きられるか	本郷左智夫	学習研究社
環境を破壊する有害ゴミ	ナイジェル・ホークス	佑学社
ごみとリサイクル	B. ジェームス	偕成社
ゴミから地球をかんがえる	石沢清史	偕成社
しんぶんしてつくりよう	よしだきみまろ	福音館書店

環境情報センターでは、主として県内の環境に関する各種調査結果や計画、白書などさまざまな資料の収集・提供をおこなってきています。が、これらのほかに、環境についての参考書や啓発書、児童書などについても積極的に収集し、県民の方々への閲覧・貸し出しに供しています。今回はそのなかから、児童・幼児向け図書の一部を紹介いたします。



〒983
 仙台市宮城野区幸町4-7-2
 宮城県保健環境センター1F
 宮城県環境情報センター
 TEL.022(257)7181 内線29
 利用時間/月～金曜日、午前9時から午後4時まで
 休業日/土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
 交通/仙台市営バス 保健環境センター・たばこ工場前下車すぐ

高清水町桂葉清水

せせらぎに昔日の旅人の面影を

高清水町は古くから良質な清水の湧くところ、良い清水のあるところとして知られ、「高清水の七清水」と呼ばれる湧水群がありました。これが現在の町名の起りともなっています。

この七清水のうち、町役場の西に広がる丘のふもとから湧き出ている桂葉清水は、今から八五〇年ほど前に発見されたと伝えられ、他の泉が失われた今でも絶えることなく清らかな水を湧き出させています。泉には瀟洒な東屋がかげられ、まわりには桂の大木のほか、清水の由来を記した碑や明治天皇にちなむ御膳水の標石などがおかれています。

かつては高清水の町通りの多くの家庭の飲料水となり、また醸造の季節には仙北地方の酒屋が十石入りの桶を馬車や馬籠につけて、この清水を運んだといえます。桂の葉影を映す泉の傍らに立ち、石組みの間を流れ出るかすかなせせらぎの音を聞きながら、眼前にひ



石組みで守られた清水

ろがる陸前丘陵のなだらかな山並みとのどかな水田を眺めていると、往時の奥州街道を往き来する旅人たちの姿が彷彿されます。桂葉清水は、いつの時代にも町の人々から愛され、守られてきました。今でも、お正月には町内の人々の若水汲みで大変な賑いを見せる一方で、保存会の人々の手によって周辺の清掃や補修など、地道な保存活動が続けられています。

ガイド

桂葉清水

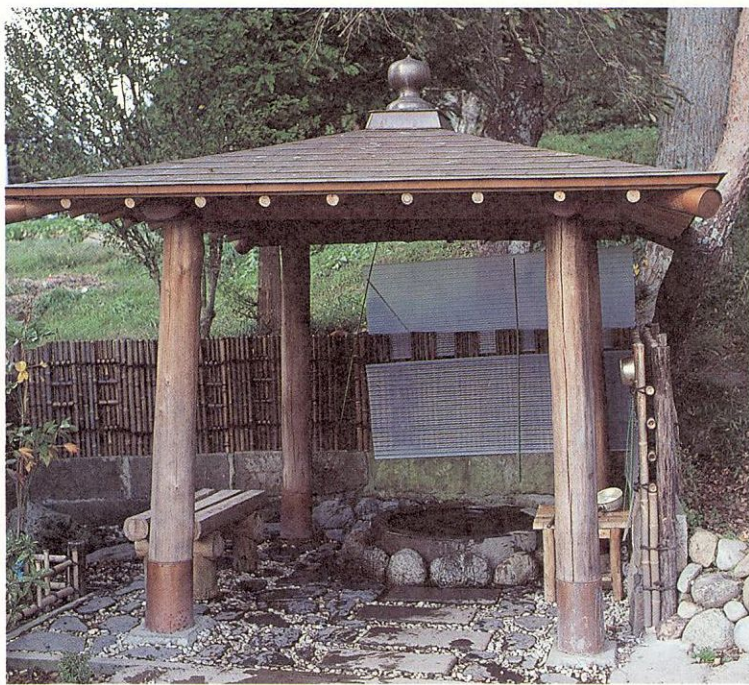
宮城県栗原郡高清水町松原

問い合わせ先

- 高清水町産業課 0228 (58) 2111
- 高清水町商工会 0228 (58) 2264
- 桂葉清水保存会 0228 (58) 2010



交通 JRバスまたは宮城交通バス陸前高清水下車。徒歩8分。



桂葉清水

山と暮らしのユニゾン

東北大学工学部助教 近江 隆

女川湾の前面海上に散在する江ノ島列島は多数の小島嶼とうしょからなり、その主島である江ノ島は入江から島頂に向かって漁家の集落がはい上がっていく。島内には平地はなく海岸への勾配が急で、切り崩した狭い敷地に家が建ち並び、狭い路地と坂、急勾配の階段が集落の景観に変化を与える。藩政時代、江ノ島は流刑の地であった。

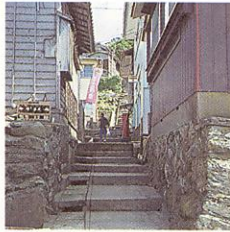
安永風土記あんえいふうどきには七つの山、八つの嶋、七つの崎、七つの浜、七つの名水が記されている。小さな島の風景をこのように細かく見る人々の心に、現代が失った「場所性」と心を通わす漁家の生活を見る。山の稜線を犯さない懐に抱かれた集落景観は、海の恵を享受し荒々しい波浪からの守護を象徴している。

都市的な集落の内部構造は、平面的稠密ちゆうみつさと地形の起伏によって景観にダイナミックスを与え、切妻、寄棟、入母屋が混在する家々の屋根は、均質化され平板になった都市住宅地景観と対照的に、個の集合によって成り立つ独特の風景を作り出している。

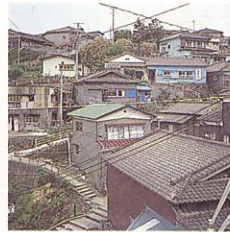
交通

JR石巻線女川駅から女川港観光棧橋まで徒歩約10分。ここから江ノ島行の定期船「こうほう」が一日2便でている。江ノ島までの所要時間は25分。

なお、4月から10月までの期間は一日3便となる予定。
(江ノ島汽船 0225-56-2142)



家並みの間を縫うように走る路地



斜面にへばりつくように建ち並んだ漁家



船着場からみた江ノ島集落

GAIA

ガイア

「薬草」

日本薬用植物友の会理事・山元町長

千石正乃夫

中国漢の時代に、馬武という将軍がおりました。馬武は戦争に敗れて荒野をさまよっていました。兵は餓死し、残った兵馬の大部分のものは下腹が張り、血尿がでる病気にかかってしまいました。野営をしている数日後に馬の血尿は正常にもどり、幾分元気をとりもどしました。これをみた馬飼いは不思議なことがあるものだと周囲を見まわしたところ、豚の耳に似た草が生えていました。ああこれだと馬飼いは直感しました。このことを将軍に伝えたところ大変喜ばれて、この草は何処に生えているのだからかれましたので、馬飼いはこの車の前に生えていますと答えました。それ以来この薬草は「車前草」と呼ばれました。豚の耳に似た草は「オオバコ」だったので。この辺では「ガエルツパ」といいます。このようにして私達の先祖は体験を通して薬草を発見したのです。薬草を探して野山を歩くことは自然を愛することなのです。

GAIA (ガイア) とは「生きる地球」という意味で使われる環境についての用語。もとはギリシア神話で大地の女神のこと。

「みやぎの環境」第四号平成4年3月16日発行(年2回3月・9月発行)

●発行所 〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目七番二号

●宮城県環境情報センター

●印刷 株式会社ソノベ

●編集委員 高橋富基、中村栄一、平 富貴(保健環境センター)、田中紀彦(環境管理課)、菅原康弘(環境保全課)、小林晴紀(廃棄物対策室)、千葉孝男(塩釜保健所)、吉田祐二(石巻市)、伊藤禮子(山元町)



この冊子はエコマーク認定の印刷用再生紙を使用しています。